

環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもって
チャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO₂排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

環境マネジメントシステム

ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

設置した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

環境マネジメント体制

ニッケグループ地球環境委員会

委員長 取締役常務執行役員

事務局 環境・知財管理室

常任委員 各事業部長、本社機構

部門地球環境委員会

ニッケの各事業部および本社、神戸本店、東京支社に設置。必要に応じてニッケ各事業所およびグループ各社に設置。

環境保全中期計画

2016年度の目標と実績

| 目的 | 内容 | 2016年度の目標 | 2016年度の実績 | 自己評価 |
|------------------------|------------------------|-----------|-----------|------|
| 省エネルギー | 工場出荷額当たり原単位 2015年度比 | 99.0%以下 | 91.6% | |
| CO ₂ 排出量の削減 | 工場出荷額当たり原単位 2015年度比 | 99.0%以下 | 89.8% | |
| 廃棄物最終処分量の削減 | 工場出荷額当たり原単位 2015年度比 | 99.0%以下 | 101.5% | |

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた 目標に向けた改善がなかった

報告対象事業所

国内製造部門: ■ 製造事業所3カ所(印南工場/一宮事業所/岐阜工場)

● オフィス(8カ所)

▲ 国内グループ会社8社(アンビック(株)、(株)ゴーセン、金属ニット(株)、尾州ウール(株)、大成毛織(株)、(株)ツキネコ、(株)ニッケ起ダイニング、ホクレン(株))

ショッピングセンター部門: ◆ ショッピングセンター2カ所(ニッケパークタウン、ニッケコルトンプラザ)

ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所2カ所およびグループ会社7社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を取得しています。

2016年度にISO14001の認証を取得したグループ会社はありません。

ISO14001 認証取得事業所一覧(2016年11月末時点)

| 事業所 | 登録年月 | 登録番号 |
|--------------|----------|---------------|
| 印南工場 | 2000年11月 | JMAQA-E156 |
| アカツキ商事株式会社 | 2001年9月 | JSAE419 |
| 岐阜工場 | 2001年10月 | JMAQA-E234 |
| アンビック株式会社 | 2001年11月 | JQA-EM1898 |
| 佐藤産業株式会社 | 2001年11月 | JEO129E |
| 株式会社ナカヒロ | 2002年6月 | E465 |
| 上海高織制紐有限公司 | 2004年3月 | 01 104 031654 |
| 株式会社ニッケ機械製作所 | 2004年11月 | 3030786 |
| 株式会社ゴーセン | 2005年4月 | JQA-EM4701 |

環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。

環境対策投資は公害防止設備や省エネ・廃棄物減量設備への投資を集計したもので、下記データの通り年度により変動はしますが、中長期計画に掲げて継続的に取り組んでいます。

公害防止コストは年間管理計画の中で規定された大気・排水分析や機能維持のための保全費用を集計したものです。

環境会計データ

(千円)

| | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 |
|----------|---------|------------|------------|---------|---------|
| 環境対策投資額 | 123,496 | 3,471,461※ | 2,096,190※ | 187,802 | 224,315 |
| 公害防止コスト | 187,839 | 183,317 | 176,253 | 195,262 | 149,467 |
| 汚染負荷量賦課金 | 2,978 | 2,909 | 2,832 | 2,713 | 2,585 |

※ 2013年、2014年、ニッケまちなか発電所への投資額を含む。

環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。たとえば、印南工場では環境負荷低減のため、廃棄物削減・リサイクル率向上を推進しています。リサイクル率は既に99%以上を達成していますが、さらに分別回収を徹底するため、2012年から、各職場の廃棄物担当者を対象に場内講習会を開催しています。施設担当者が講師を務め、廃棄物の区分やリサイクル方法を説明し、分別回収の重要性を認識してもらいました。

分別回収の意義・効果を理解し、地球環境保護・改善に繋がるよう努めてまいります。

環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2016年度はニッケ2事業所合計で不適合1件、観察事項16件の指摘がありました。不適合内容についてはすでに是正処置は完了しており、更新登録認証をいただいております。またニッケの2事業所で合計49名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2016年度は不適合2件、観察事項17件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合があります。

環境リスク管理

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



岐阜工場 排水異常時の対応訓練



印南工場 消火放水訓練

環境影響の監視・測定

ニッケグループでは、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、製造事業所3カ所と(株)ゴーセン天神工場では、所在する地域の排水水質規制を上まわる自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、新設備導入時など騒音が心配される場合は防音壁の設置や消音材の張り付けを実施し、周辺の生活環境の保全に努めています。

法令順守状況

2016年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に重大な違反・罰則・訴訟はありません。

環境コミュニケーション

兵庫県加古川市のグループ企業と地域の皆様との相互理解を深めるために、年2回、周辺の町内会の代表と地域連絡会を開催しています。連絡会では地域の情報交換や各グループ企業の状況報告をするとともに、地域に根ざした企業グループとして地域をサポートできるような体制の構築に取り組んでいます。

また、印南工場と兵庫県、加古川市の間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて加古川市環境保全協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。

地域への情報発信・啓蒙活動

ニッケコルトンプラザは、地域の皆様を対象とする、緑化や省エネなどの啓蒙活動に協力しています。

「クールアースいちかわ2016」

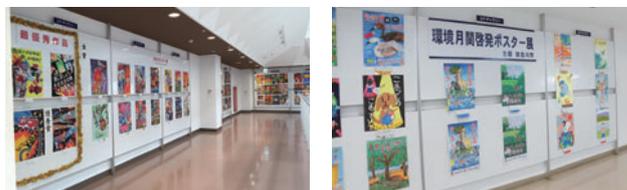
市川市では、毎年7月7日(七夕)の日を地球温暖化について考える日「クールアース・デー」と位置づけており、七夕の午後8:00から午後10:00にライトダウン(節電)に取り組むことになったため、市川市より協力をお願いがあり、コルトンプラザも外部看板のライトダウンを実施しました。

(主催:市川市地球温暖化対策推進協議会)



ニッケパークタウンでは、加古川市内の幼稚園や小学生が描いた環境ポスター展や、防火ポスター展を開催するにあたり、3階のギャラリーを無料で開放をしています。

毎回多くの地域の皆様に鑑賞して頂いております。



グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

2016年度のグリーン購入該当購入比率は「91.2%」でした。今後もグリーン購入法の基準に基づき、法適合品を優先して購入していきます。

グリーン購入該当品購入比率

(%)

| | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 | 2016 |
|---------|-------|------|------|-------|-------|
| 紙類 | 95.7 | 90.8 | 92.5 | 94.5 | 91.7 |
| 文具類 | 73.4 | 70.2 | 71.5 | 75.5 | 82.6 |
| 機器類 | 96.4 | 99.6 | 70.8 | 59.1 | 56.4 |
| OA機器 | 99.9 | 99.9 | 99.9 | 100.0 | 99.9 |
| 照明 照明器具 | 100.0 | 96.5 | 99.9 | 99.6 | 100.0 |
| 照明 蛍光灯 | 94.9 | 86.4 | 98.3 | 100.0 | 91.9 |
| 合計 | 95.0 | 93.5 | 94.6 | 89.9 | 91.2 |

環境に配慮した不動産開発

兵庫県加古川市にあるショッピングセンター「ニッケパークタウン」の大規模リニューアル工事をH28年10月に行いました。当ショッピングセンターはオイルショックを契機に非繊維事業に乗り出した初めての商業施設です。

開業以来32年経ち設備の老朽化も進みましたので、照明は全面的にLEDに更新、変圧器も省エネ性能の高い機種に更新しました。リニューアルにより床面積が7%増加しましたが、電気使用量は17%低下しています。

また、環境を配慮して屋上緑化を取り入れ緑地面積を倍増しました。

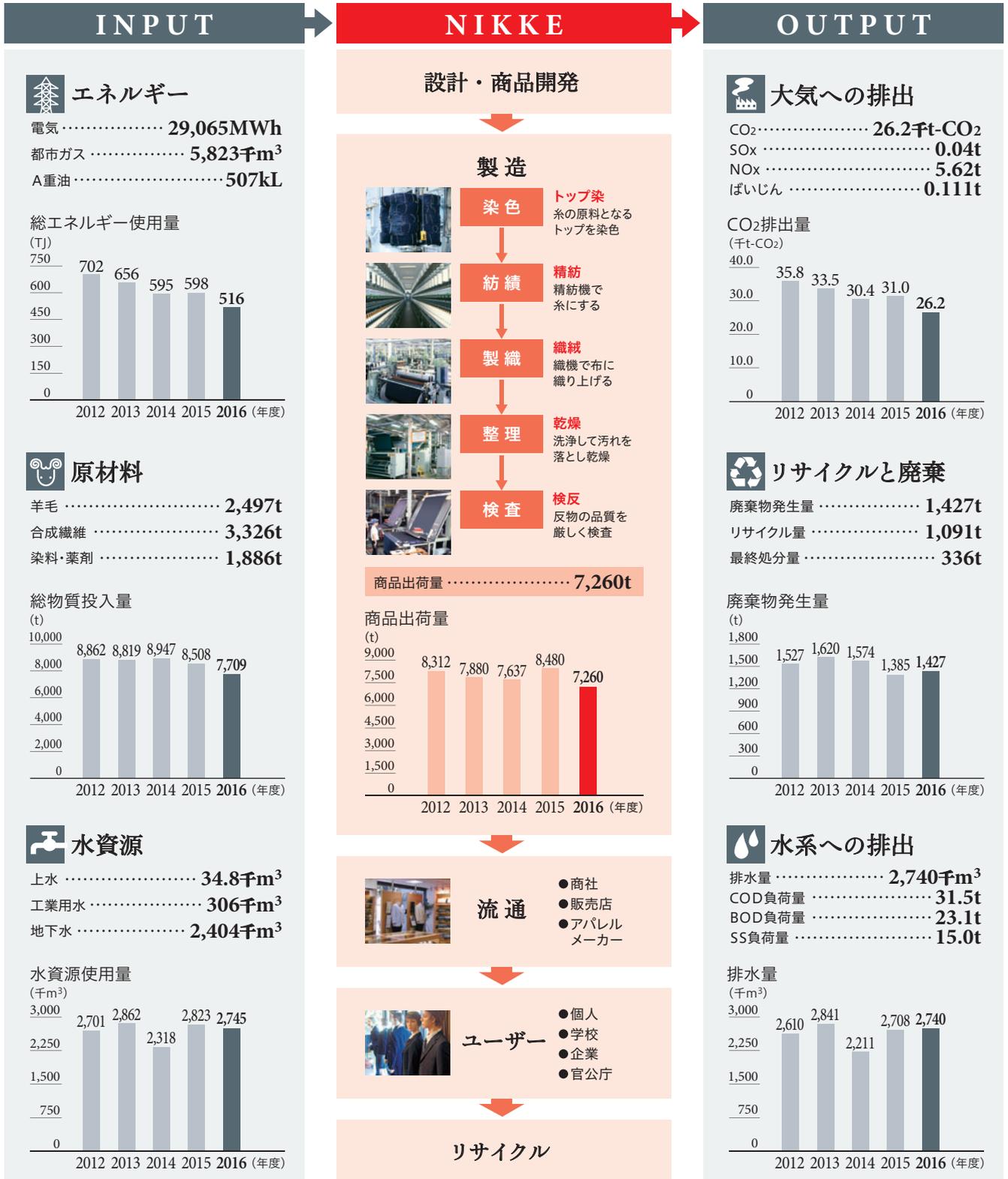
新たなテナントの出店もあり多くのお客様にご来店いただいております。



2階テラスの芝生

環境負荷の全体像

原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO₂や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。



報告対象事業所

国内製造部門: ■ 製造事業所3カ所(印南工場/一宮事業所/岐阜工場)

● オフィス(8カ所)

▲ 国内グループ会社8社(アンピック(株)、(株)ゴーセン、金属ニット(株)、尾州ウール(株)、大成毛織(株)、(株)ツキネコ、(株)ニッケ起ダイニング、ホクレン(株))

ショッピングセンター部門: ◆ ショッピングセンター2カ所(ニッケパークタウン、ニッケコルトンプラザ)